公立豊岡病院組合立病院のあり方検討委員会

第1回部会 報告書

平成18年6月15日

平成18年5月25日に開催された、第1回「部会」において、第3回委員会までの意見を集約化し、論点整理を行いましたので、その結果について報告します。

論点整理に当たっての基本的な考え方

部会の論点整理に当たっては、深刻な病院の医師不足と財政悪化の悪循環の中、組合立病院が経営危機に直面している非常事態にあり、その中でいかに地域医療を確保し、市民の安全を守っていくかを「市民の立場から検討する」という観点に基づき、意見集約を行った。

論点1 医師確保策等について

医師確保が非常に厳しい状況の中、更に但馬地域は、子弟の教育問題や気象条件等、新規に医師を呼ぶには不利な環境にある。

この状況を踏まえた上で、具体的な医師確保策等について検討する。

○医師確保策

現勤務医師の給与との整合性や費用負担の問題などを考慮しながら、人材派遣業者の利用を検討するとともに、魅力的な病院作り、医師全体の給与の引き上げ、過重労働の解消などの勤務条件の改善等により、新規医師の確保と現勤務医師の定着化を図ることについて検討する。

○分娩での助産師（助産院）の活用

全国的な産科医不足の中、助産師（助産院）による分娩を見直す動きが起こっている。訴訟等に対するサポートが前提となるが、当地域での可能性を検討する。

論点2 経営状況について

職員の経営に対する参画意識の徹底を行うとともに、「公」に守られているという意識から脱却し、企業的な観点からの経営を推進、資金枯渇による経営破綻の危機を回避する方法を検討する。

同時に、市民に対し、厳しい経営状況について積極的なPRを行うことについて検討する。

論点 3 医療資源の集約化について

医療資源に限られる中、市町合併等、病院組合を取り巻く状況の変化を踏まえ、医療面、経営面で現状より多くのメリットが確保される形での医療資源の集約化の方法を検討する。

○効率的な医療資源の配置等

- ・医療資源を内科系・外科系に分けて複数病院に配置、シャトルバスの運行等により、一つの病院として機能させることを検討する。
- ・救急医療の確保、相乗効果による医療レベルの向上、業務負担の軽減等が図られるような医師の配置を検討する。
- ・医療機能の明確化や効率的運用が図られるような医療機器の配置を検討する。

※上記集約化を行うとしても、外来機能は当面現状を維持していく。

論点 4 病院と診療所の連携・機能分担について

病院と診療所（開業医）の連携・機能分担には、適切な医療サービスの提供や、病院勤務医の負担軽減という観点から、大きなメリットがある。特に、休日診療所の活用は、救急医療確保という点からも有効である。

現在より更に連携・機能分担を推進するための具体策を検討する。

○病院と診療所の棲み分けの推進

「病院は急性期と入院、開業医は慢性期と外来」という医療サービスの棲み分けの推進と、それに伴う「病院のスリム化」について検討する。

○医療機関の利用方法についてのPR

医療機関の利用方法及び休日診療所について、行政が主体となって積極的にPRするとともに、開業医・病院勤務医は、診療の中で患者に対し直接に啓発を行うことについて検討する。

論点 5 病院組合の意思決定・市民からの支援の仕組みについて

今後の施策を展開していくに当たっては、病院組合として適時・迅速な意思決定と一体的な取り組み、それに対する市民からの支援が必要となる。

その実現のため、「病院組合が動きやすい仕組み」の構築方法について検討する。